

平成 19 年度当初の外来魚生息量推定

田中 秀具

◆背景・目的.....

琵琶湖の外来魚生息量を推定することによって駆除事業の効果を評価する。

◆成果の内容・特徴

- ・ 2006年4月～2007年3月の県事業による外来魚駆除量は、表1示すように、総量503.5トン、南湖が375.8トン、北湖が127.7トンであった。魚種別内訳は、ブルーギル、オオクチバスの順に南湖で94.8%、5.2%、北湖で69.5%、30.5%であった。
- ・ 漁獲物の体長組成から外来魚の死亡率を推定し、漁獲方程式を用いて琵琶湖の生息量を推定した。琵琶湖全体の2007年4月現在の外来魚生息量を表2に示す。琵琶湖全体でオオクチバスとブルーギル合わせて、1529トンと計算され、およそ1600トン程度生息すると推定された。
- ・ この推定値と昨年と同時期・同手法による推定値(表3)との比較から、上記の駆除量に対して、約100トン減少したことになる。すなわち、現在の駆除事業の開始以来、毎年ほぼ同じペース(450～500トン/年の駆除に対して100トン/年)での減少となる(表2～4)。
- ・ 今後の駆除の進め方に対して、前年に引き続き、次の2点が示唆された。
 - (1) 南湖での駆除の継続と併せた北湖での駆除強化の必要性。
 - (2) オオクチバスの駆除強化の必要性。

◆成果の活用・留意点

本研究における生息量の推定手法は、毎年の生息量が安定していない場合、推定値に誤差が生じることがある。

表1. 2006年4月～2007年3月の捕獲量(トン)

	全琵琶湖	南湖	北湖
外来魚	503.5	375.8	127.7
ブルーギル	445.1	356.3	88.8
オオクチバス	58.4	19.5	38.9

表2. 2007年度当初の外来魚の推定生息量(トン)

	全琵琶湖	南湖	北湖
外来魚	1529	617	912
ブルーギル	1219	585	634
オオクチバス	310	32	278

表3. 2006年度当初の外来魚の推定生息量(トン)

	全琵琶湖	南湖	北湖
外来魚	1636	556	1080
ブルーギル	1295	527	768
オオクチバス	341	29	312

表4. 2005年度当初の外来魚の推定生息量(トン)

	全琵琶湖	南湖	北湖
外来魚	1740	572	1168
ブルーギル	1413	542	872
オオクチバス	327	30	297